

今月の情報

国際薬剤師・薬学連合（International Pharmaceutical Federation : FIP）について

国際薬剤師・薬学連合（International Pharmaceutical Federation : FIP）は、薬学、薬科学、および薬学教育を代表する世界的な組織であり、日本薬剤師会も加盟しています。1912年に設立されたFIPは、オランダのハーグに本部を置く非政府組織（NGO）です。現在FIPは、世界各国の160を超える国の組織や学術機関、そして個人が会員となり、世界中の550万人に及ぶ薬剤師、薬科学者、薬学教育者で組織されています。この組織、活動を通じて、加盟団体、および世界中の薬学専門職の間で情報やベストプラクティスを共有することを最優先事項の一つとしています。そしてFIPは、世界保健機関（WHO）やユネスコ（UNESCO）など、世界的な保健・教育・科学の機関と連携し、国際保健の発展を支援しています。現在はオーストラリアのポール・シンクレア氏が会長を務めています。

FIPのビジョンと「ONE FIP」の理念

FIPでは「すべての人々が、安全で、効果的で、質の高い、手頃な価格の医薬品、医療技術、および薬剤師によるケアサービスにアクセスできる世界」の実現をビジョンとして掲げています。薬学実務、薬科学、および薬学教育の進歩を通じてグローバルヘルスを支援し、世界中のヘルスケアシステムにおける薬剤師の役割を提唱し、公平な医薬品アクセスを促進することを目指しており、これはいわば「世界的な医薬品提供体制の構築」を目指しているともいえます。

このビジョンを達成するため、FIPは薬学実務（Practice）、薬科学（Science）、薬学教育（Education）の三つの主要な部門で構築されています。FIPが掲げる「ONE FIP」の理念は、これらの部門がより密接に連携し協力を進めていくことを目指すものです。

FIPの組織構造は、元々実務部門（BPP : Board of Pharmaceutical Practice）と薬学研究部門（BPS : Board of Pharmaceutical Sciences）が中心でしたが、薬学全体を発展させるためには、これら二つの分野を人材育成（教育）によって有機的に結合させる必要性があると議論され、現在の三本柱の枠組みが確立されました。この枠組みにおいて、薬剤師の職能促進を担うBPPが中心的役割を担い、BPSが科学的知見で実務をサポートし、教育部門（FIPEd : FIP Education）がその全体の人材育成を支援するという、相互に関連した役割を担っています。

薬学変革のためのロードマップ：FIP 開発目標（FIP DGs）

FIPが2020年に世界の薬学を変革するための戦略

的な指針として策定したのが、21のFIP開発目標（FIP DGs : FIP Development Goals）です。この目標は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の概念を基盤としており、実務、科学、人材育成（教育）の三つの側面を統合した体系的なフレームワークとして位置づけられています。

FIP DGsは、単なる努力目標ではなく、国や地域、そして専門職全体が達成すべき世界的な基準としての意味合いも含まれています。加盟団体がそれぞれの国の状況に応じてニーズ評価と優先順位付けを行うための枠組みを提供し、国や世界の医療ニーズを満たすための体系的な行動の基盤を形成することを目指しています。さらに、FIPではこのフレームワークは、大学や専門職団体による応用研究や、政府機関による薬学的医療への投資や政策の国家的な計画を可能にするための基礎となり得るとしています。

FIP DGsは、薬学の人材育成と、薬学的医療の提供、そして薬学研究に裏打ちされた薬学的サービス提供を結びつけるための論理的な次のステップであり、「薬学の人材なくしてファーマシューティカルケアはありえず、また、科学的基礎なくしてファーマシューティカルケアはありえない」というFIPの考え方を反映しています。本編は英語ですが、山村重雄先生により日本語訳（<https://www.fip.org/file/5409>）が作成されFIP公式Webサイトで公表されています。

Strategic Plan 2025-2030

FIPは、2025年から2030年にかけての新しいグローバル戦略計画（Strategic Plan 2025-2030）を2025年12月5日に発表しました。この計画は、労働



21のFIP開発目標 (FIP DGs : FIP Development Goals)

力の圧力、技術的変化、気候変動といった世界的な課題に対処するため、今後5年間で薬学専門職が目指すべきグローバルな方向性を示すものです。本戦略計画では序文において、薬学の持続的な発展には専門性の向上だけでなく、薬局・薬剤師の“経済的持続可能性”を確保することが不可欠であると明言されています。また、地域医療を支える薬剤師の役割拡大、デジタルヘルスや個別化医療への対応、気候変動や災害時の医薬品アクセスといった新たな社会課題への貢献が重視されていることも強調されています。FIPはこうした多面的な課題に応えるため、各国の薬剤師会・薬学教育機関・規制当局と連携し、薬学の変革を主導していく姿勢を示しています。

この2025-2030戦略計画は、前述のFIP開発目標 (FIP DGs) を「羅針盤 (Compass)」として活用しています。戦略計画では、DGsを通じて、FIPのすべての活動が世界の健康改善に貢献するように設計されています。

戦略的成果 (Strategic Outcome) の概要と主な取り組み

1. 医薬品アクセスと健康サービスの確保

UHC (ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ) の原則に基づき、すべての人々が医薬品とケアにアクセスできるよう提唱します。医薬品供給の安定と信頼性を確保し、低品質・偽造医薬品対策を推進します。ワクチン接種、健康スクリーニング、慢性疾患サポート、セルフケアカウンセリングなど、アクセ

スしやすい薬局サービスの拡大を支持します。

2. 人中心の薬学ケアとウェルビーイング

薬剤師がアクセスしやすい正確な医薬品情報を提供するための役割を果たし、患者の利益を最大化します。薬局でのワクチン接種 (PBV)、慢性疾患・NCDs (非感染性疾患) 管理における積極的な役割を教育・支援します。専門職のウェルビーイング、自律性、職務満足度をサポートする戦略を推進し、強靱で意欲的な薬学人材の確保を目指します。

3. イノベーションと薬学科学の推進

科学コミュニティと連携し、新しい医薬品、治療法、健康技術の発見と開発を促進し、継続的な投資を国際的に働きかけます。遺伝学、ファーマコゲノミクス、個別化医療などの革新的技術に関する教育・訓練を支援します。新技術がどの国・地域でも利用できるよう、持続可能で公平な形で実務に導入されることを支援します。

4. 薬学ケアと労働力開発 (WFD) の強化

薬剤師が、人中心のケアを提供し、健康アウトカムを改善するための教育と訓練をサポートします。ワクチン接種や慢性疾患管理を含む公衆衛生上の課題に対応できるスキルを装備させます。医薬品の誤用および乱用を軽減するための教育および介入プログラムを推進します。世界的な薬剤師の不足と不均衡に対処するための戦略を実施し、人材のレジリエ

ンス（回復力）を高めます。

5. AMR対策とOne Healthアプローチ

抗菌薬耐性（AMR）との世界的な闘いにおいて重要な役割を果たすため、国際組織と連携し、One Healthアプローチ（人・動物・環境の健康はつながっているという考え方）の一環として、AMR対策に“全地球的な健康（planetary health）”の視点を組み込みます。これにより、環境、動物、人間の健康の相互関連性を認識します。

6. リーダーシップ、組織運営、国際連携の強化

FIPでは、すべての意思決定や取り組みが、地域や専門領域、役割の違いを超えて、会員全体の利益に寄与し、その多様なニーズに応えるものであることを重視しています。

具体的な取り組みとしては、国・地域・部門をまたぐリーダー育成や、IT・デジタルプラットフォームを活用した世界的な知識共有の推進があります。また、意思決定プロセスの改善を通じて、FIPがグローバルヘルスの推進における主要なリーダーとして、より効果的に機能し続けることを目指します。

FIP デジタルイベント

FIPは、後述の国際会議（World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences）に加え、インターネット上のイベントも通年で定期的に開催しています。これらは「FIPデジタルイベント」と呼ばれ、世界の薬剤師が直面する喫緊の課題に対応し、継続的な専門能力開発を支援する重要な役割を果たしており、地理的な制約なく、最新の知見に触れる機会を提供しています。具体的には以下のようなテーマで開催されています。

- ・公衆衛生上の重要課題：抗菌薬耐性（AMR）、非感染性疾患（NCDs）、感染性疾患の予防と管理。
- ・実務と予防戦略：患者の安全、ワクチン接種を含む予防戦略、セルフケア、ヘルスケアのデジタル化の推進。
- ・変革と持続可能性：公平性や持続可能性に関するテーマ、21のFIP開発目標（FIP DGs）に関連するシリーズ。

多くのデジタルイベントはウェビナー形式で実施されており日本国内からでも視聴可能です。海外の動向や他国の薬剤師の業務に興味がある方にとっては、世界的な薬学の進展を把握し、自身の専門性を高めるのに有用なのではないのでしょうか。

FIP が発出するドキュメント

FIPでは随時「Report」「Statement」「Guidance」「Handbook」「Toolkit」「Framework」といったカテゴリーの成果物をWebサイト上で発刊しています。近年は年間40～50のドキュメントが発行されており、2025年に発刊されたドキュメントのうちFIPによりプレスリリースされているものを抜粋すると以下のようなものがあります。

- 政策ツールキット「Strategies for expanding pharmacy-based vaccination：薬局ベースのワクチン接種を拡大するための戦略」
- 薬剤師向けガイド「Global pharmacy-based vaccination policy framework：世界的な薬局ベースのワクチン接種政策の枠組み」
- 「FIP knowledge & skills reference guide for professional development in environmental sustainability：環境持続可能性における専門能力開発のためのFIP知識・技能リファレンスガイド」
- 「Hypertension Pharmacy Toolkit：高血圧薬局ツールキット」
- 政策声明「People-centered pharmaceutical care：人中心のファーマシューティカルケア」
- 政策声明「Artificial intelligence in pharmacy practice：薬局業務におけるAIの使用」
- 政策声明「The role of pharmacists in non-



岡田浩先生（京都大学・日薬国際委員会委員）も委員として編集に参加した「非感染性疾患における薬剤師の役割」

communicable diseases：非感染性疾患における薬剤師の役割」

○「Global Situation Report on Pharmacy 2025：世界薬局情勢報告書2025」

○症状の管理とセルフケア支援ハンドブック「Erectile dysfunction：勃起不全」

○「FIP knowledge and skills reference guide for professional development in vaccination services：薬剤師主導のワクチン接種サービスに関する知識とスキルのガイド」

○「An artificial intelligence toolkit for pharmacy：薬局向けAIツールキット」

Webサイト上で誰でもアクセスできるものであり、興味がある分野のものについてはぜひご一読ください。

国際会議 (World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences)

FIP国際会議 (World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences) は、世界の薬学専門職 (薬剤師、薬科学者、薬学教育者など) が年に一度集い、薬学の進歩や課題について議論する最も重要な国際イベントです。

2025年第83回会議は、コペンハーゲンで開催され日本人も約100名参加しました。これまでFIPでは英語で発表が行われるのみでしたが、今回の会議より、AIベースのリアルタイムコンテンツ要約ツールが導入され、参加者は70以上の言語ですべてのプレゼンテーションのリアルタイム翻訳と要約などに



アクセスすることが可能となりました。

次回 (2026年) 第84回FIP国際会議は、カナダのモントリオールで「One Health, One Pharmacy — 科学・実務・教育の架け橋として」をテーマに開催されます。会期は2026年8月30日～9月2日です。患者中心の医療や国際保健における薬学の役割をさらに発展させることを目的として開催される予定で、本会議では、薬剤師がより良い健康アウトカムの実現、必須医薬品への公平なアクセスの確保、強靱な保健医療体制の構築にどのように貢献できるのかが幅広く取り上げられます。

次々回の2027年第85回は、マレーシアのクアラルンプールで2027年9月12日から9月15日まで開催されることが予定されています。

国際会議では、各国の加盟団体がFIPの運営方針について議論する評議会が開催されるほか、様々なイベントも開催され国際的な連携を深める場ともなっています。ぜひご参加ください。



国際会議では加盟団体による評議会も開催される